

探究過程における子どもの「思考」の構造を明らかにした 社会科授業の開発

大西慎也 米田 豊 岩本 剛 王子明紀 宜野座剛 畑 和馬

1 問題の所在と研究目的

平成 19 年 6 月 27 日に公布され、同年 12 月 26 日に施行された改正学校教育法第 30 条 2 項で、学力の要素について次のように規定された。

- ①基礎的・基本的な知識・技能
- ②基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- ③主体的に学習に取り組む態度

改正を受け、社会科においては、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力」が重視されることとなった。

「思考」は、基礎的・基本的な知識・技能を活用して、新たな「知識・理解」の習得に至る子どもの内面の行為である。子どもたちの「思考力」を育成するために、探究過程において、子どもたちがどのような「思考」をしているのかを明確にする必要がある。そのためには、子どもたちの「思考」を評価することが重要となる。小学校において社会科の評価の中心になっているのは、「思考」と「知識・理解」との明確な区別がないままに取り組みられている市販のペーパーテストである。中学校においても、「知識・理解」の評価に偏ったペーパーテストによる評価に頼っている実態がある。現状は、「思考」の評価が明確に行われているとはいえない。評価が明確になさなければ、目標が達成されているかがはっきりとせず、授業における指導内容や手立てが適切であるのか明確にならない。そのため、「思考力」が確実に育成されているとはいえないのである。このような現状を打破するために、社会科の授業における「思考」の構造を明らかにし、「思考力」を育成できる授業と評価方法を開発する必要がある。

そこで、本研究では、「思考」に関する様々な先行研究から、社会科授業の探究過程における「思考」の構造を明らかにする。そして、「思考」の構造にもとづいた授業を開発し、明確に「思考」を評価する方法を開発することを目的とする。

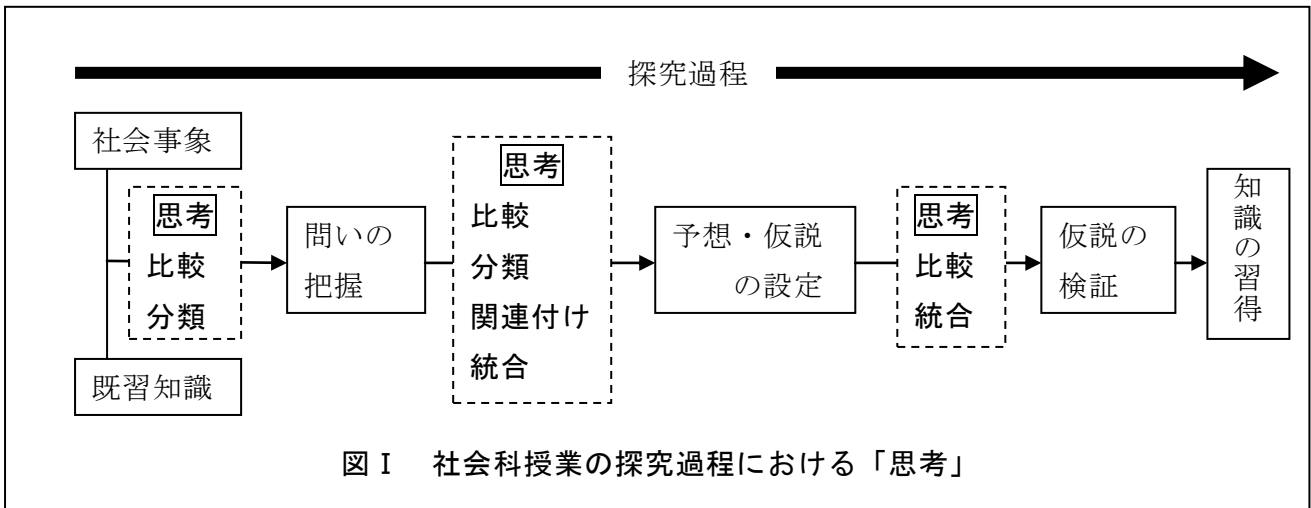
2 社会科における「思考」と実践

(1) 「思考」とは

子どもは、社会科の授業において常に「思考」している。「問いの把握」をする際には、それまでに習得している知識を活用して、社会事象に対する矛盾点を発見するために「比較」「分類」などの「思考」を行っている。また、「予想・仮説の設定」をする際には、それま

でに習得している知識を「比較」「分類」し、「関連付け」「統合」する「思考」を行っている。さらに、「仮説の検証」を行う際には、「比較」「統合」などの「思考」を行っている。その結果、知識を習得している。

社会科授業における「思考」について、社会科教育学、認知心理学、論理学、分析哲学の先行研究から分析した。その結果明らかになった、社会科授業における探究の過程の「思考」は、図 I（「社会科授業の探究過程における『思考』」）のとおりである。



（２）実践①小学校5年生「わたしたちの食生活と食料生産」

日本の農業（たまねぎ、ピーマン、レタス、稲作）に関して、習得した知識を活用して探究する授業を開発した。単元の最終の時間は「みかん」について探究している。これは、子どもたちが「日本の農業に関する知識」を活用し、「みかん」について説明できるかを評価するために行った。「思考」を評価するための時間である。

①目標

日本のみかん（温州みかん）の生産量が、和歌山県、愛媛県、静岡県で多いのはなぜか、「日本の農業」のしくみを学習した成果を活用して考え、「土地」「気候」などの条件から説明することができる。（思考・判断・表現）

②本時の展開

学習活動	○主な発問 ◇おもな呼びかけ	予想される 児童の反応	指導上の留意点	*資料 ☆評価
・日本のみかん生産量ベスト3を確認する。	○1位和歌山県 2位愛媛県 3位静岡県 たとえば、何かな。	・くだもの ・みかん ・自動車	・地図帳などの資料から考えさせる。	*地図帳

なぜ、日本のみかん生産量は、和歌山県、愛媛県、静岡県が多いのだろう。				
<ul style="list-style-type: none"> ・みかんの生産量ベスト 3 の理由を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇考えることが困難な児童には、「日本の農業」について考えた成果を活用することをアドバイスする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海に近いところばかりだな。<u>（地図帳との「比較」「関連付け」「統合」）</u> ・大消費地との距離は比較的近いな。<u>（地図帳との「比較」「関連付け」「統合」）</u> ・冬でも暖かいところが多いのでは。<u>（「関連付け」「統合」）</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料集や地図帳をみて考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> *各地の雨温図 *日本の地形の掛図 ☆<u>「比較」「分類」「関連付け」「統合」が行えているか。</u>
<ul style="list-style-type: none"> ・「みかん」の生産地の特徴を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「みかん」の生産地の特徴を説明しよう。 			

③評価

子どもたちは、みかんについては、これまで学習はしていない。しかし、それまでに習得している知識（「たまねぎ」「ピーマン」「レタス」「稲作」の生産地の特徴に関する）を「比較」し、「関連付け」て、「統合」しながら探究することができた。

先に示した図 I の探究の過程をたどっており、子どもは実際に「比較」「関連付け」「統合」などの「思考」を行っていることが明らかになった。

（2）実践②中学校における評価問題開発

「思考」を評価するための評価問題には、実際に子どもが「分類」「比較」「関連付け」「統合」を行うことができる問題が必要である。本研究では、図 I の探究過程における「思考」の中で資料を使った問題を開発した。資料を「比較」し、「関連付け」て、「統合」することによって解答できる問題である。実際の問題を示したものが、次ページの資料 I 「中学校評価問題開発例」である。それまでに習得している近畿地方の知識を活用しながら、表 I に示された人口に関する情報と、表 II に示された面積、農業産出額、製造品出荷額等の日本全土に対する割合、湖沼・河川の面積などの情報を組み合わせて考える問題である。二つの資料から得た情報を、それまでに習得している知識と、「比較」し、「関連付け」なければ解答できない問題である。最終的には、情報と知識を統合し結論を出すことになる。その

